

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との調和を理念に掲げ、地域との連携が図れるように努めている。運営推進会議を通じて町の福祉支援課と民生委員さんとコミュニケーションを図っている。	左に同じ	事業所の運営規定と職員の志をホール内に掲示してある。「利用者に敬意を払い失礼のない対応を心がける、日常生活動作の低下を防ぐ努力をする、家庭的な雰囲気の中で利用者個々に合った生活を作り出す」を職員の志として共有し、利用者に寄り添い日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに食材の買い物に行き、知人に会うと声を掛けてくれる。また、面会に来て下さるきっかけとなっている。地域の保育園の運動会に参加し、えんじと一緒に競技などを行っている。地域の防災訓練、地域の祭り等にも参加している。		地域の保育園の運動会や防災訓練、お祭り等に職員と一緒に参加している。また、農協の駐車場で開催するフリーマーケットに、利用者が作ったアクリルタワシや雑巾等を販売し地域との交流に取り組んでいる。家族が歌を唄ってくれたり、地域の住民がバイオリン演奏に来るなどボランティアの来訪もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設全体で認知症サポーター研修を受講している。町主催の認知症家族会に参加し、家族の困っていることなどを聞き、対応方法などを伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、活動状況などを報告している。ご家族様の参加もあり、施設側に対しての要望を聞きサービスの向上に努めている。		2か月に1回隔月の第4木曜日に開催しているが、出席者の都合で変更する場合もある。会議には関係者の他、利用者の代表とその家族が交代で出席している。会議では事業所からの活動報告とともに、参加者からの質問、意見、要望を受けている。民生委員からは率直な意見をもらい支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいている。居室が空いている時などは町へ連絡し、紹介していただいている。		運営推進会議の出席もあり、町担当者には事業所内の取り組みや実情は伝わっている。管理者が介護保険策定委員になっているので町関係者との関わりもある。また、町が主催する会議には職員が出席するなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、スピーチロックについて取り組んでいる。各自がスピーチロックを理解しており、普段の業務の中で使わないよう意識している。また、職員同士で注意している。		法人の身体拘束委員会があり、職員は出席して身体拘束の内容とその弊害を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ケアの中で利用者の行動を制限するような言葉づかいに気づいた時は、職員間で注意するようにしている。また、スピーチロック等自己チェックができる取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。また、職員が研修も受けている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方がおり、成年後見人制度について勉強している。また、必要な方には制度の情報を提供している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と利用約款を利用し、入居時に十分な説明を行い理解・納得していただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加を促し、会議の中でご家族からの要望・意見を聞きそれらを運営に反映している。意見・要望等を気軽に話せる雰囲気作り心掛けています。意見箱も設置してある。		家族にはおたよりでの近況報告や面会時に問いかけて話を聞くように心がけている。また、事業所行事への参加時にも問いかけて何でも言ってもらえるよう留意している。県外にいる家族から、身体に変化が生じた場合、県内か県外の施設にするのがいいのか相談があり後見人制度の話も対応した。	家族にはおたよりでの近況報告や面会時に問いかけて話を聞くように心がけている。また、事業所行事への参加時にも問いかけて何でも言ってもらえるよう留意している。利用者の体調に変化が生じた場合の施設選択の相談や後見人制度等も情報提供し対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中に管理者とコミュニケーションを図る時間が十分にあり、いつでも相談や意見を発言できる環境にある。		日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、何かあればいつでも意見を言ってもらえる関係が作られている。パート職員は雇用契約時に事務長との個人面談をしている。また、職員から相談がある場合はその都度、個人面談をして話を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は現場の職員と関わりながら、業務をこなしている。理事長の訪問は週1回あり、そこで色々な事を相談できる環境にある。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足の為、それぞれのレベルに合った、利用			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では県内の協会に参加できていない(人員不足の為)が、いくつかの施設との交流はあり、相談している。管理者が全国のグループホーム協会の会議に参加しており、他のグループホームの良い所を取り入れようとしているが、なかなかできていない。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話し合う場を作り、困っている事や不安な事を聞き、安心して生活できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに気軽に訪問して頂き、話しかける雰囲気作りを努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・本人の実情や要望についてしっかり把握できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族から本人の習慣としていた事や趣味などの情報をできるだけ得て、その人らしい生活が送れるよう心がけている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を踏まえ報告している。また、本人の要望を叶えられるようにご家族の協力も得ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの物を持参していただくようお願いしている。ご家族に本人の居場所を伝えてもらい、施設に訪ねてきてくれるようお願いしている。気軽に面会できる雰囲気作りにも努めている。		家族等から利用者の居場所を聞いて、知人、友達、職場の同僚が訪ねて来てくれる。お墓参りや馴染みの美容院、自宅に帰るなど家族の協力で馴染みの人や場所とのつながりを継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、好み、能力等を把握し、日常の中でそれぞれの入居者が活躍できる場を提供している。性格が合わず、ぶつかってしまう時には、席の移動、フロアの移動等行っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も関わりを必要とされる場合、その後の相談、支援を行いたい。退居後の施設等に本人の様子を見に面会に行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活を把握し、希望に添えるよう努めている。ご家族にも協力を得ている。ご家族より昔の本人の様子を聞き取り、少しでも本人を理解できるよう努めている。		入居時に家族等から情報を得て、思いや意向の把握をしている。日々の関わりの中で声を掛け、会話や行動、表情からも汲み取るように心がけている。趣味は本人から聞き取り、生活に取り入れている。把握困難な場合は、家族から聞いたり、日頃の様子から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族との面談の場で情報収集している。これまでのサービス利用時の情報、経過等に関係機関より情報を得るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する能力、心身状況などを職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに家族に普段の様子を伝えながら、意向を聞き取り計画書に反映するようになっている。日常生活の中で本人の意見等を聞き取り、実現できるように努めている。本人の状態に合わせ職員間で検討し、より良い生活が送れるよう努めている。		入居時に利用者、家族の意向を聞いて介護計画を作成し要望に応えるよう努めている。3か月で見直し、アセスメントを含め担当職員の情報を得て職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。家族の要望や身体状況に変化が生じた場合には、見直して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別に記録し、職員間で共有している。少しでもの変化にも気づき、対応している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活が送れるように、その時々生まれるニーズに出来るだけ対応していきたい。インフォーマルサービス等の利用も考えたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、出来るだけ地域資源の活用も考えたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの係りつけを継続している。定期受診は、ご家族に依頼している。緊急時には施設側で対応する時もある。併設のDr.の回診もあり、病状等相談し必要であれば病院受診を家族にお願いすることもある。病状に変化がある時は職員が付き添い様子を伝えるようにしている。		入居前からのかかりつけ医を全員が継続して受診している。定期受診は家族同行を基本としているが不可能時には職員やボランティアが代行するようにしている。必要に応じて家族と共に職員も同行し普段の様子や変化を伝えている。週1回、併設の医師の回診があり、アドバイスを受けるなど利用者の体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で情報や気づき等を、随時併設の看護師に相談している。場合によっては、本人の様子を直接見に来られ、必要な処置等を行ったり、指導してくれたりする。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し、情報を伝えている。また、入院中の様子など病院関係者と連絡を取っている。入院中の様子を見に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に特養の申請をお願いしている。施設内で重度化した時には、早めに病院受診し、早い段階から対策を取っている。自力歩行が出来なくなってしまうと、施設の利用が出来なくなってしまうことをご家族様に理解してもらっている。歩行が不安定となってきた段階で、ご家族と話し合いの場を持つようにしている。		入居時に事業所は重度化や終末期の対応をしていない旨の説明をしている。利用者の行動が他の利用者の生活または健康に重大な影響を及ぼす恐れがあり、かつ利用者に対する通常の介護方法ではこれを防止することができないと事業所が判断した場合は見極めとして、他施設への入所として特養への申請をお願いしている。利用者の身体に変化が生じた場合は、家族と話し合う機会をもち、入所が決まるまでの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に併設の老健と合同で、救急時の対応等の研修を消防署を含め行っているが、いざという時に対応出来ない事もある為、今後研修の場を増やす事も検討していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と共に非難訓練を行っている。災害時の避難誘導については職員に伝えている。不方侵入者についてのマニュアルは作成し、実際に警察署を交えて訓練した。今後地域との協力体制を整えていきたい。		併設の施設と合同で年2回、防災訓練を実施している。火災を想定して、非常階段を使い利用者として外への避難誘導訓練や職員の消火訓練を行っている。不法侵入者の訓練では、警察署を交えて実施し、マニュアルも作成している。地域との協力として災害時の避難場所として町と協定を交わす準備がある。	火災、地震、台風、水害、大雪など地域に応じて具体的な想定が必要と思われる。災害時の具体的な避難方法を昼夜を通して検討し、避難誘導ができるように備えていくためのマニュアルを作り、日頃から避難経路の確認や利用者の状態を踏まえた避難誘導等の訓練が定期的に行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを創るための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう職員間で心掛けている。また、気づいた時にはその場で注意するようにしている。		トイレ誘導時は他の利用者には気づかれないよう、さりげない言葉かけや対応に配慮している。また、居室に入る時はノックしてから入るようにしている。トイレの戸が開いていたり、居室の戸が開いたままで着替えをしないように、職員間でも確認するようにしている。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	在宅福祉施設カーム三珠	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		外部評価	
項目		ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表所や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自己決定できるよう支援している。外食に行った際は、自分の好きな物を食べられるようメニューより選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課に沿って日常生活を過ごしていただいているが、本人の希望を確認し、拒否が強い時には無理しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は普段着ていた服などを持参してもらっている。買い物に出掛けた時に本人の好みの物を購入するよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせて、出来る事を職員と一緒にやっている。食材刻みが得意な方には食材刻みを依頼し、苦手な方には後片づけ等を依頼している。なるべく多くの方が作業に参加できるようにしている。入居者様より食べたいメニューを聞き取りメニューに取り入れている。	併設している施設のメニューを基本として調理している。利用者に聞いて献立を替えたり、野菜をもらった時には使って調理している。食べたい物があれば聞いて、個別メニューにも対応している。食材をきざむ、盛り付け、おしぼり量み等利用者の個々の力を活かし、職員と一緒にやっている。利用者と職員皆で一緒に食事し、楽しい雰囲気をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特別食の方に配慮している。個々に合わせ、支援が必要な方には主食のグラムを決め計って提供している。食事摂取量が少ないタカは、水分・食事チェックをし主治医に伝えている。本人の習慣に合わせて、パンが好きな方にはパンを提供するなどして食事が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。入居者様の能力に応じ一部介助しながら行っている。歯科医の往診もあり口腔ケアチェックを行い指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。オムツ類も検討し、本人に合ったものを使用するようにしている。	行きたい時にトイレに行くことができる利用者が半数、声掛けでの誘導が半数と自立してトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表を使用し、訴えが困難な利用者も時間を見はからって誘導している。リハビリパンツや布パンツに使用しているパットの大きさも使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品の摂取に心かけている。特に便秘がちな方には食物繊維のファイバーを使用している。水分摂取も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を奨励するように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングに合わせて入浴に誘導している。また、1番風呂に入りたいたいの希望を優先している。本人の髪質に合わせてシャンプーを使い分けしている。季節に合った入浴剤を検討し、皮膚トラブルの防止に努めている。	ユニット毎に曜日を分け、週3回を基本として午前中、午後と日中に入浴している。利用者のその日の希望を確認して入る順番等決めている。乾燥が気になる季節には入浴剤にも気を配り、利用者に不安のない濁りの無い物を使用している。シャンプーも利用者に合わせて事業所で用意して一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

在宅福祉施設カーム三珠

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(赤ユニット)	ユニット名(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方にはその習慣を尊重している。夜間寝つきが悪い方には足浴・湯たんぽ等を使い、気持ちよく休めるよう支援している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により薬の内容を把握している。薬の変更等での副作用にも注意を払っている。薬の変更後の本人の様子なども観察している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう買い物・掃除・洗濯たため・洗濯干し等依頼し、役割を持っていただいている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1ヶ月に1回は季節に合った行事を企画し、外出の機会を設けている。また、買い物に行きたい方は買い物に出掛けるよう支援している。帰宅願望がある方に対しては、出来る限り対応し、自宅を見に行く支援も行っている。		日常的には事業所周辺を散歩したり、買い物に行ったりと戸外に出掛けている。月1回季節行事があり、月担当職員が企画して季節を感じる紅葉やお花見、ぶどう狩り等に行っている。また、年2回春と秋に利用者と家族が一緒に親睦会があり、家族の協力も得て外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様のお小遣いは職員が管理しているが、事故管理が出来る方は、少ない金額を財布に入れ管理している。支払能力があるかたは、自分で支払うように支援している。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけた方にはかけるお手伝いをしている。本人宛てに電話の時には会話できるよう支援している。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ掲示物を入居者様と一緒に作成し掲示している。散歩に出掛けた際、季節の花を摘みフロアーに飾っている。地域の方からのお花の差し入れもある。		中庭を囲んで2ユニットになっていて、自由に行き来することができる。ユニット毎に洋風と和風と趣きが異なり、こ上がりの畳スペースにこたつ、ソファの前にこたつと好きなようにくつろいでいる。和風ユニットの大きな窓からは八ヶ岳、南アルプスが見渡せ四季を感じることができる。共用の場所には季節感のある飾りや行事の写真が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにベンチを設置したり、畳にこたつ等を用意してもらっている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの家具等を持ち込んでいたがけるよう支援している。洋室と和室の居室があり、空いている時には、本人のスタイルに合わせ選択してもらっている。		ユニット毎に居室が異なり、畳に障子の和室とフローリングにカーテンの洋室になっている。洗面台、ベッドが備え付けになっていて、家族が用意したテレビ、整理ダンス等を持ち込み設置して、その人らしく過ごせるような部屋作りがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除(自室)洗濯、炊事(下ごしらえ)買い物(職員と同行)など各個人の能力に見合った作業をこちらからお願している。出来るだけ、沢山の方が手伝っていただけるよう心掛けています。				